

令和7年度 第2回公設宮代福祉医療センター運営懇話会会議録

開催日時	令和7年10月28日（火）午後1時30分～午後3時00分
開催場所	公設宮代福祉医療センター 3階会議室
出席者	委 員 木村由美子会長、今岡京子副会長、田口孝雄委員、村山ふさ江委員、鈴木健司委員、吉永吉正委員
	事務局 石井英利センター長、宮崎康之診療所長、秋山耕治参与、曾根一浩事務長代理、草野公浩健康介護課長、野口延寿保健センター所長、石井栄主幹
欠席者	今村経夫委員、関根美和委員
傍聴者	なし
配布資料	次第、運営懇話会資料
会議録作成者	石井

1. 開会（進行：野口所長）

2. 公設宮代福祉医療センター長あいさつ

3. 運営懇話会会長あいさつ

4. 議事（進行：木村会長）

1) 令和7年度上半期公設宮代福祉医療センター利用状況について

（事務局より説明）

－質疑応答－

委 員 利用者が減少していることに対してどのような分析をしているのか。

事務局 人口の減少、物価高の影響での受診控えが減少の要因と考えている。六花のみならず全国的に病院経営は厳しい。

委 員 健康増進の意識が高まっており、医者にかからなくても健康であるということではないか。

事務局 六花に通院しなくなった利用者の動向は確認できない。健康であり通院しないほうがむしろ良い。

委 員 もともとかかりつけ医がある方は、それを六花に切り替えることはない。そもそも、利用者をどんどん増やしていこうということではないのではないか。

事務局 宮代の住民は、県内の市町村と比較して医療費が少なく、かつ、健診受診率も高い。健康に留意されている方が多い。

委 員 予防接種の人数が減っているのは気になるが、これからインフルエンザワクチ

ンの接種時期になって、病院ごとに接種費用が決められるがその影響は。

事務局 費用が高いから接種しないという方もいるが、特に影響はないと感じる。昨年は带状疱疹ワクチンの任意接種が始まり、また、子宮頸がんワクチンの駆け込み需要があったため、今年と比較して接種者数も多かった。小児科については、昨年は感染症が全国的に増えたことによるものです。

事務局 65歳未満のインフルエンザワクチンの費用は各施設で設定できるが、昨今の物価高の中でディスカウントすることは難しい。

2) 令和7年度上半期公設宮代福祉医療センター損益計算書について

(事務局より説明)

－質疑応答－

委員 事業収益がマイナスとなっているが、下半期の動向は。

事務局 引き続き下半期も厳しい状況は続くと考える。

委員 経費の部分で努力をされていると思うが、経常利益は大きなマイナスとなっている。昨年度は上半期でマイナスだったが、決算ではプラスに転じているので、今年度も下半期でマイナスが減っていく傾向があるのか。

事務局 10月以降インフルエンザ予防接種、特定健診の収益が見込まれるため、上半期のマイナスを減らせることはできる。

委員 病院という性質上利益を追求することは難しく、逆に利益がないほうが住民の健康状態がいいという裏腹の話である。宮代町の場合、住民の方の健康に対する意識が高く、ある意味喜ばしいところであり、病院が赤字のほうがいいということになってしまうが、病院経営上そうは言ってはいられない。

委員 六花に対してすべてを求めるのではなく、自分のニーズに応じた病院選択をすることが大事である。その中で六花がどういう役割を担っていくかを考えることが重要である。

委員 印刷製本費が減少している理由は。

事務局 ある程度まとめて発注している影響です。

委員 寄付金が大きく減少した理由は。

事務局 前年度の利益に対して町に寄付するもので、町と六花との協定で前年度で終了となった。

3) 令和7年度上半期公設宮代福祉医療センターの取組について

(事務局より説明)

委員 職員の方による行事での出し物ということで、社協にも一芸ボランティアがいるので、ぜひ利用してください。

事務局 利用者と家族の方の面会やボランティアの活動も再開し、利用者の方が楽しい時間を過ごせるようになった。

委員 入所者の方にコロナワクチンやインフルエンザワクチンを接種するのか。

事務局 希望者の方に接種している。

委 員 六花の通所リハビリの評判がとても良い。

4) 運営に関する意見・要望等について

－質疑応答－

委 員 住民の方は医療機関を使い分けている。六花という施設を住民で支えていかなければならない。

5) その他

(事務局より説明)

5. 閉 会